

テトラ・アビエーション株式会社

航空宇宙分野

実施期間

2020年度

実用化開発場所

南相馬市

人々の移動は陸から空へ変化する 「空飛ぶクルマ」が近未来の交通の主流をめざす

事業計画

eVTOLの推進系多重化技術の実証

※eVTOL(electric Vertical Take Off and Landing) 電動垂直離着陸機



米国でのMk-5飛行試験①



米国でのMk-5飛行試験②



米国でのMk-5飛行試験③

事業概要

eVTOLの安全性向上の一つとして回転翼多発化による冗長化が挙げられます。本事業では、将来の製品化に向け、これまで開発してきた機体の安全性向上を目的に、既存の電源系や制御系を応用した6発以上の回転翼を持つeVTOLを製造し、多重化技術を確認するとともに、最低浮上発数以上に多発化する場合の機体制御技術等を獲得することを目指します。

事業化への道のり

弊社では2020年にアメリカで開催された1人乗りエア・モビリティの開発コンテスト用の機体「teTra Mk-3」を発表し、現在は後継の「teTra Mk-5」の開発が進んでいます。日本はeVTOLの開発は欧米諸国に対し大きく遅れており、2030年代の国内本格導入に向けて国際競争力や技術的能力の向上や商業化のための制度整備が進んでいます。「人を乗せて飛ぶこと」を目的としたMk-5は物流や中距離の旅客輸送、災害救助・救急搬送などの活用方法が想定されるため、有人化へ向けた多重化安全性技術の実用化を実証する開発を進めています。

▶イノベ機構による支援 ※福島イノベーション・コースト構想推進機構(イノベ機構)によるイノベ構想関連開発技術の事業化支援(本冊子P.120を参照)

数社からベンチャー企業や学生向けのマッチングイベントの紹介、求人募集の支援をいただいております。弊社では南相馬市を中心に福島県の浜通り地域において「空飛ぶクルマ」の開発を進めていくにあたり、いろいろな企業や人に知ってもらうことができたと考えています。今後、この業界にはより多くの企業が参入してくると予想されますが、イノベ機構の支援で、よりよい協力企業に出会えるものと期待しています。

▶今後の展望

法整備が進んでいないなか、eVTOLは自家用航空機という扱いになります。もし運用するには日本では自家用操縦士、アメリカではプライベートライセンスの免許取得が必要になります。日本は自家用航空機の所有者が少なく市場が小さいため、まずライセンス所有者が多く、飛行エリアも整備されているアメリカ市場向けに販売、開発を進めていく予定です。



代表取締役 中井 佑

テトラ・アビエーション株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生 2丁目15-10 101号
〒975-0036 福島県南相馬市原町区萱浜新赤沼 83番 福島ロボットテストフィールド 研究室9

創業 2018年06月
従業員 10名
TEL 050-5539-4379
URL <https://www.tetra-aviation.com/>



廃炉

ロボット・ドローン

エネルギー

環境・リサイクル

農林水産業

医療関連

航空宇宙